**第10章　事後学習ワークシート**

1.表1に4歳児の発達の姿を第10章から抽出し，記入しよう。

**表１　4歳児の育ちの姿**

|  |  |
| --- | --- |
| **身体・運動** |  |
| **手先の操作** |  |
| **身辺自立** |  |
| **自我と対人関係** |  |
| **言葉と内的世界** |  |

2.保育所保育指針では，3歳以上の保育に関するねらい及び内容「イ　人間関係」の中で「（ウ）内容の取扱い」として以下の事を記載している。空欄に適切な用語を，下記に示した用語の中から選んで入れてみよう。

（　　　　　　　　　　　　　）を形成しながら（　　　　　　　　）を育てていくようにすること。その際，集団の生活の中で，子どもが（　　　　　　　）し，保育士等や他の子どもに認められる体験をし，（　　　　　　　　　　）に気付き，自信をもって行動できるようにすること。

子どもが互いに関わりを深め，（　　　　）して遊ぶようになるため，（　　　　　　）する力を育てるとともに，他の子どもと（　　　　　　）しながら活動を展開する楽しさや（　　　　　　　）が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

|  |
| --- |
| 共通の目的・協同・人と関わる力・試行錯誤・一人一人を活かした集団・自己を発揮・自ら行動・自分のよさや特徴 |

3.この頃の子どもとの関わりとして，不適切と思われる保育者の関わりにチェックを入れてみよう。

□(1) この時期は我慢する気持ちを促すのが重要であり，自己主張する力は伸ばさないほうが良い。

□(2) 子どもの象徴的遊びを促すために，様々なおもちゃや道具，制作に使える材料を室内に用意する。

□(3) 子どもたち同士がルールに従って役割交代をして遊ぶために，保育者がルールを説明したり，ヒントを出したりして足場づくりをする。

□(4) 自由時間に一人だけ集団から外れて積み木遊びに熱中している子どもがいたら，子どもの希望にかかわらず，できるだけ他の子の遊びに入るように促す。

□(5) 遊びの中で子どもが独り言をブツブツ言っている時には，周りの迷惑になるのでやめさせる。

□(6) 子ども同士のいざこざが起こった際，子どもたちだけで解決できそうにないときは，保育者が間に入り気持ちを代弁したりして仲直りの手助けをする。

4.子どもが複数人でやり取りしている場面を観察しよう。第10章に示された事例を参考にしてエピソードを作成してみよう。エピソードとは，見たことをありのままに物語にして書く記録のことである。その後，仲間入り・いざこざ・自己制御・遊びの発達等の観点から，考察してみよう。

**注意事項**：買い物に行ったり，公園を散歩したりしたとき等，日常生活の中で，通りすがりに出会った子どもを思い出して書いてみよう。普段の生活の中で目にした子どもを記録にしてみよう。わざわざと特別なことをする必要はない。コロナの問題があるので，対応を考えて可能な範囲で進めよう。ソーシャル・ディスタンスをとり，遠くから観察しよう。また，相手に不快感やいやな印象を与えないように，自然にふるまおう。時間は5分程度。記録は見たままを書こう。考察は，今回学んだ仲間関係や自己，遊びや内面世界の発達に関連づけて検討してみよう。

日時：○月○日○時ころ

場所：公園で

**事例：200字程度**

|  |
| --- |
|  |

**考察200字程度**

|  |
| --- |
|  |